

感電災害を防ぐために

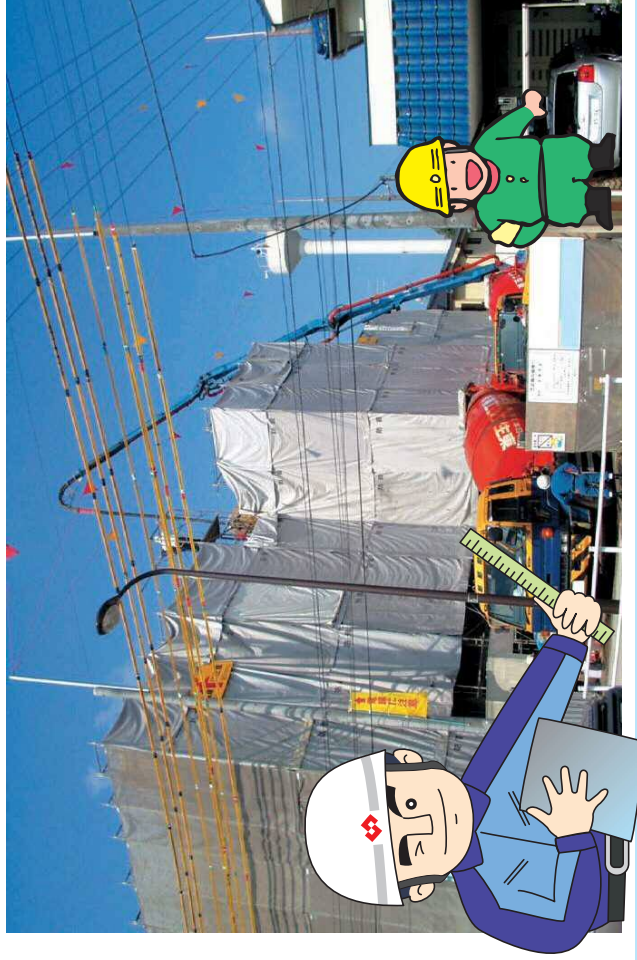
移動式クレーン・コンクリート圧送車等をご使用される皆さまへ



東京電力パワーグリッド

お近くの東京電力パワーグリッドへ

電線の付近で移動式クレーン、圧送車等を使用される
ときは、必ずお近くの東京電力パワーグリッドへ連絡を
お願いします。
《その1本の電話が、事故・災害を防ぎます》



◆電線の近くで作業をされる場合には感電をさけるために

- 電力会社と作業計画の事前打ち合わせを行うこと
- 関係作業者に対し、感電の危険性と作業標準を周知徹底させること
- 電線に対して、安全な離隔距離を保つこと
- 監視責任者を配置すること
- 危険を防止するための囲いを設けること
- 当該電線路に絶縁用防護管を装着すること

などが、**労働安全衛生規則・行政指導通達**で皆さまに義務づけられております。

◆そこで東京電力パワーグリッドでは移動式クレーン、圧送車等を使用して 作業される皆様方に

- クレーン、圧送車等と電線の間にどのような危険が潜んでいるのか
 - 具体的にどのように感電災害を防ぐか
- について作業箇所に近い、お打ち合わせを行い、感電災害の防止に協力させて
いただきます。

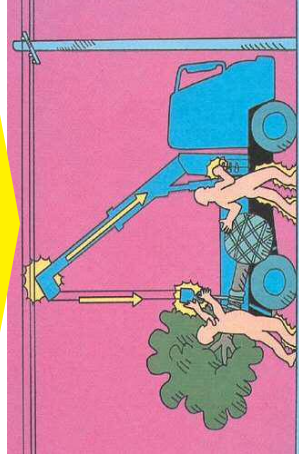
※**当社からのお願いに、ご協力いただけない場合には、所轄の労働基準監督署に
連絡させていただくことがあります。**

あっ危ない!!



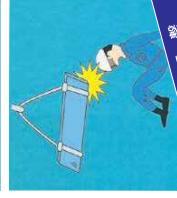
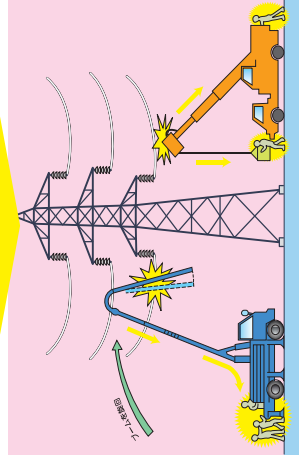
電線（配電線）に接触すると

車体やワイヤーなどを伝わって
電気が流れ、感電してしまいます



電線（送電線）に接近すると

電線に近づいただけで放電がおこり
電気が流れ、感電してしまいます



電 撃



火 傷



心臓麻痺



感電時の着用衣服

作業者の感電災害・停電事故を引き起こします

インラインの停止に待つ間、

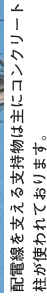
患者生命への影響

地下街のパニック

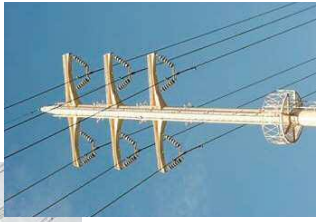
交通機関の混乱



電柱付近で作業をする場合は



送電線は高い電圧の電気を流してありますので、電線を支える支持物は、主に鉄塔が使われています。



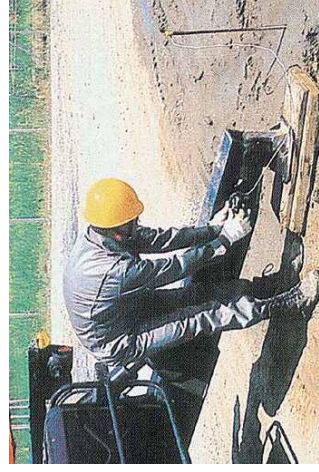
送電線付近で作業する場合は

- ◎接近を防止する目安として、防護施設ならびに注意標識類を設置する必要があります。

- ・送電線は裸線のため、接近するだけで、感電する恐れがあります。
- ・送電線は電圧が高いため、防護管の取り付けができません。
- ・送電線への接近を防止するには、作業現場の上空に、目安となるネットやロープ等の防護施設を設置することが、最も有効な安全対策です。
- ・感電防止措置はお客さまで対策を講じることが、労働安全衛生規則第349条等で義務づけられています。



オペレーターや合図する方は、どうしても吊り荷の動きに気を取られがちになりますので、電線に対する注意がおろそかになりやすく、また、離隔距離の目測を誤ったりしやすいものです。



アースの取り付けと転倒防止です。

アースは、万一の事故のときに電気を地面に逃がし電気のショックをやわらげるはたらきをします

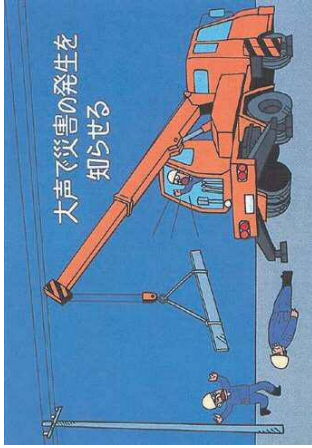
なお、このアース線は、断面積が 2 mm^2 程度の太さをもった電線が必要です。

また、労働安全衛生規則第173条及びクレーン等安全規則第69条～第70条の5によるものなど、転倒防止措置を施して下さい。

地面の下にも、電線(ケーブル)が埋設されている可能性があります。
お近くの東京電力パワーグリッドへ連絡をお願いします。

もし災害が発生したら

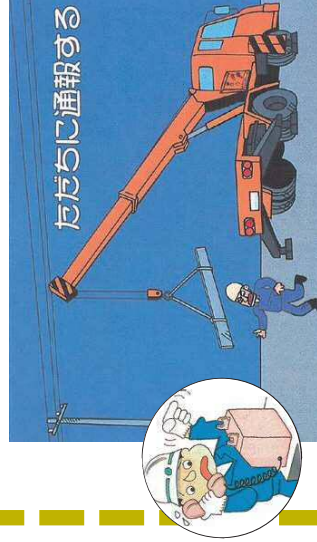
①万一災害が発生した場合は、



大声で災害発生をまわりの人たちに知らせてください。
吊り荷や車体などには絶対触ってはいけません。

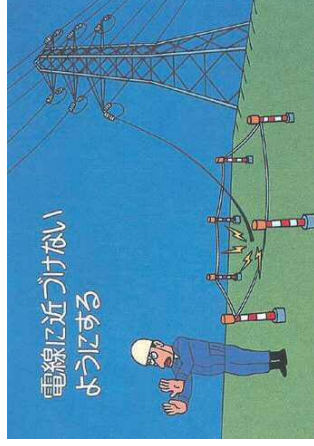
運転席が設置されているクレーンなどでは、玉掛作業員や補助者の感電災害が拡大しないようにオペレーターはあわてずに、**接近・接触している部分を電線から遠ざけてください。**

一旦電気が止まっても再送電される場合があるため、車上から降りる際は、**人体に電気が流れるのを防ぐため車体に触れたまま、地面に足を付けないようにしてください。**



②負傷者がいた場合、

一刻も早く応急措置をとってください。
特に感電して気を失っている場合には、**機を失せず人工呼吸や心臓マッサージが必要**です。



③電線が切れた場合、

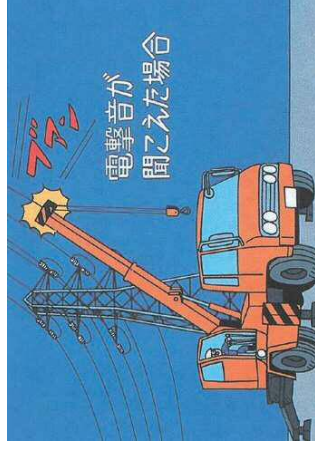
一旦停電したとしても、すぐに送電される場合があるので、電線にはいつも電気が流れているものと考えて近づかないようにして下さい。

ただちに東京電力パワーグリッドへ通報してください。

④幸いにして負傷者が出なかったとしても、

電線に接触したり、接近しすぎて『ブーン』という電撃音が聞こえた場合は、停電が発生するとともに電線が損傷している場合があります。

かならず東京電力パワーグリッドへ通報してください。



あとには

適切な安全措置をとらずに、人身災害や物損事故を起こしたとき…

- ・業務上過失致死傷や労働安全衛生法違反等により、懲役や罰金を科せられることがあります。
- ・送電配電設備に被害を与えた場合は、設備の復旧に要した費用やその被害に起因して発生した停電等による損害を賠償する責任を負います。

■過去の感電事故例

作業中の感電事故で
☐の業者書類送検

☐労働基準監督署は
二十五日、☐町☐で
先月十八日に護岸工事中
の作業員三人が送電線に
触れ感電、手足にやけどと
を負った事故で、請けと
社の☐町☐、☐
☐建設工業と同社の☐
代表(三七七)を労働安全
衛生法違反の疑いで☐
地検に書類送検した。
調べによると同社は、
護岸工事でコンクリート
打ちの作業中、送電線近
くで移動式クレーンを使
って作業していたにもか
かわらず、監視人を置か
なかったり、感電を防止
するための安全措置を怠
るなど、必要な安全義
務を怠っていた。

■上記感電災害は、感電負傷者を出ただけでなく、13,400戸が停電しました。